

県立産業技術専門校 一般選考試験問題

国語

受験科

科

受験番号

番

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 読書と旅はよく似ている。

② まずは旅について。ある辞書では旅という言葉で「住む土地を離れて、一時他の土地に行くこと」と定義している。ここで大事なポイントは二つある。第一に旅とは「住む土地を離れ」ることであり、第二にそれが「一時」的であること。③ カンケツにして明快。人は旅に出てどこかへ行くのだし、いずれは帰ってくるのだ。

③ 一時的に普段の生活の場を離れて別の土地に行き、そこで時間を過ごす。それがなぜ楽しいのか。実は毎日の生活に不満があるからではない。旅は必ずしも④ トウヒではない。自分というのの一つの人格である。そして、この人格を一つにまとめ、日々大過なく経営してゆくにはなかなか疲れることである。そこで、時々、ほんのすこしだけ自分ではないものになってみる。生活を脱いで、非日常の方へ行く。行くけれども必ず帰ってくる。これは仮の姿、今は特別の時、日常から降りている状態。そう思うことができるのが旅だ。

④ 旅は別人格への願望の表現である。普段の生活からの解放であると人は思うけれども、結局のところは普段の自分からの解放なのだ。人の中には①別の自分になりたいという気持ちはどこかにあって、つじつまの合った生活をしながらもこっそり⑤ 破天荒な人生を夢見る。そして、それを旅の時にすこしだけ実現してみる。だから旅先の苦労は後になって振り返ってみるとすべて楽しいものに見える。

⑤ では本はどうか。これも自分を普段の人格から②解放するためのしかけだ。別の世界に入っていくって、一人称の話であればその主人公に乗り移り、三人称の話やノンフィクションであればその世界全体を⑥ 鳥瞰する特権的な観察者になりきる。

⑥ 小説の中ではいかなる大冒険も大恋愛も可能で、それをある程度まで現実味のある体験として与えてくれるのが傑作ということになる。あまり現実から離れると⑦ 荒唐無稽、現実には近すぎるとおもしろくない。両方の間をうろうろするというか、欲張って両方取り込んでしかも矛盾を感じさせないのが傑作である。

⑦ 『源氏物語』などであったら、話の中への旅は数日ではなく数週間に及ぶだろう。だが、それでも最後に現実に帰らなければならぬのは同じ。小説ではなく、もっと実用的な本でも、現実から一歩踏み出すという原理は変わらない。一見して情報だけが目的の『楽しいパソコン教室』という本があったとする。これを読むのはつまりパソコンの使い方に③自分という別の人格への乗り移りを体験することなのである。

(1) ————— 線部のくゝのカタカナを漢字に直しなさい。また、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

(2) 「①別の自分になりたいという気持ち」に最も近い意味で用いられていることばを、第四段落の文章中からそのまま抜き出して、七字で書きなさい。

(3) ② にあてはまる最も適当なことばを、第三段落の文章中からそのまま抜き出して、四字で書きなさい。

(4) ③ にあてはまる最も適当なことばを、次のア～エまでのの中から選んで、記号で答えなさい。

ア 習熟した イ 反応した ウ 苦勞した エ 失望した

(5) 筆者は、この文章において、自分の考えを述べるために説明の工夫をしている。おもにどのような工夫がされているか。その最も適当なものを、次のア～エまでのの中から選んで記号で答えなさい。

ア 仮説を提示した後で、根拠となる数字をあげている。
イ 予想される読者の意見をあげ、それに反論している。
ウ 一見違う行為を比較し、その類似点を指摘している。
エ 対句法や擬人法を多用して、強い印象を与えている。

□ 二次の文法の問題にご答えなさい。

(1) 次の各文のうち、敬語の使い方が適当でないものをア～エの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① ア 私は吉田と申します。

イ 先生から子供にご注意してください。

ウ 母がよろしくと申しておりました。

エ ご注文は当方で申し受けます。

② ア 先生、ごちそうが冷めないうちにいただいでください。

イ ご近所の方からお土産をいただいた。

ウ 次回の研究会から参加させていただく。

エ イギリス留学中は何かとご助力いただきました。

(2) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

その名はだれもが④知っているとさえいえる松尾芭蕉は、俳諧を芸術の域にまで高めた大成者である。⑤松尾芭蕉が出現しなかったなら、いったい俳諧はどうなっていたのだろうか。

「奥の細道」などの俳諧紀行文を残し、多くの弟子を残し、俳諧を芸術に高めてその生涯を閉じた。⑥、俳諧というジャンルを確立するために、天が芭蕉を出現させたのだろう。

① ——線部④ 知っている の二つの文節はどのような関係か。最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 主語・述語の関係 イ 修飾・被修飾の関係 ウ 並立の関係 エ 補助の関係

② ⑤、 ⑥ にあてはまる副詞として最も適当なものを次のア～カの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア おそらく イ いったい ウ けっして
エ よもや オ もし カ あたかも

(3) 次の各文の ——線部のことばのうち、意味及び用法が他と異なるものをア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

① ア バスで学校に通っている。
イ 筆で字を上手に書けますか。
ウ のみと金づちで木を彫り始めた。
エ 寒さで手がこごえそうだ。

② ア 氷が溶けて水になってしまった。
イ 東京に住んでいる人は何人いますか。
ウ 庭に椿の花が咲いている。
エ 山の上に小屋がある。

③ 次の語句の問いに答えなさい。

(1) 次のそれぞれの四字熟語は漢字が一字ずつ間違っている。それを抜き出し、正しく書き直しなさい。

① 初志貫徹 () ↓ () ② 一後一会 () ↓ ()
③ 起承転決 () ↓ () ④ 当意則妙 () ↓ ()

(2) 次のア～シのことわざから似た意味のことわざを二つ一組で四組選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|-----------|---|----------|---|--------------|
| ア | あぶはち取らず | イ | 笑う門には福来る | ウ | 二兎追うものは一兎も得ず |
| エ | かえるの子はかえる | オ | 猫に小判 | カ | 朱に交われば赤くなる |
| キ | ぬかにくぎ | ク | 弘法も筆の誤り | ケ | 豚に真珠 |
| コ | 豆腐にかすがい | サ | 医者の不養生 | シ | 紺屋の白ばかま |

四 次の——線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。またカタカナを漢字に直しなさい。

- (1) 試験に備えて勉強する。
(2) 心の支えとなる。
(3) 万全の状態で試合に臨む。
(4) 体を鍛える。
(5) 健やかに育つ。
(6) 悪臭が漂う。
(7) 心を奪われる。
(8) 実力を発揮する。
(9) 微妙な問題。
(10) 鳩は平和の象徴だ。
(11) 激しいテイコウを受ける。
(12) ミリヨク的な女性。
(13) キミヨウな事件
(14) 新人をカンゲイする。
(15) 金銭のスイトウ帳
(16) 友人をシヨウカイする。
(17) 建物をハカイする。
(18) 市内をジュンカンするバス。
(19) グウゼンの一致。
(20) コドク感にさいなまれる。